

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告（最終回）です。

◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2022 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学 online」の場をお借りして、関市内の19企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

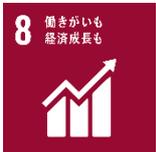
◇ 企業紹介

【郡上観光 株式会社】

大滝鍾乳洞と郡上八幡「紙刃楽(しばらく)」を運営しています。大滝鍾乳洞では、東海地区最大級の石灰洞窟を中心に、釣り堀や流しそうめん等を楽しめるレジャー施設です。「紙刃楽」は、昨年郡上八幡の街中にオープンした刃物と美濃和紙のお店です。



【HP】 <http://www.ootakicave.com/>

| | | | |
|-------------|---|---|--|
| 関連するSDGsの目標 |  <p>8 働きがいも経済成長も</p> |  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> |  <p>12 つくる責任つかう責任</p> |
|-------------|---|---|--|

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

今回、観光についてのお話を聞いている中で、地域内でより良い発展をするのには、人との関わり合いや事業者同士での交流がどれほど大事なことなのかを理解しました。加えて、事業者同士での交流や地域のことについて話し合える場があることで、より地域の良さを発掘出来ることを知りました。また、観光は観光客に喜んでもらうことも…大切ではあるものの、その観光地を地元とする地域の人々が愛される地域であることが重要なので、もっと関市について知って行きたいです。

各会社の取締役の方たちの話を聞いて、観光事業を行う上で大切なことは外国人観光客をどれだけ呼び込めるか、また、どんなイベントや集客を行うかだと思っていました。しかし、実際は地域の方たちと交流を深めることによって県外や外国の方たちに宣伝してもらうことに繋がるため、持続的な内容の取り組みを行う必要がある、ということが分かり、自分の認識を改めることが出来たのでよかったです。とても良い経験になりました。

観光地で、地域の人を楽しめる施設や、活動をしているところに対して、「観光とは外部の人を呼び、楽しませることが目的なのは、、、」と最初は疑問を持ちました。しかし、お話を聞いて、地域の方の了承を得て、大切にしたい文化や地域の色を出しつつ、時代の流れに沿った観光をしていることが分かり、地域の方から愛されているからこそ成り立つ観光なんだと改めて気づくことが出来ました。また、近きもの来たれば大きもの来たるという言葉も知りました。地元を活性化させるには周りの人達の信頼やサポートが大切だということを知りました。これからのFRHの活動に繋げていきたいです。

よい観光を作るには、お客さんに楽しんでもらうことだけを考えるのではなく、地域の人にも愛される観光地にできるように、考えて作るということ学びました。また、最近の若者に流行しているものを取り入れるのは、最初は良いほうに進むかもしれないが、その町の良さがどんどん衰退していってしまうので、流行は気にせず、その町の魅力を出していく方が大事だということ学びました。その地域を観光に強い地域にするためには、住んでいる人たちがその地域で楽しんでいることが重要だと学びました。だから、私たちの地域がもっと魅力を出せるようにするためにもできるだけ外に出て行きたいと思いました。

講師の方々には、地元を観光地として売り出す中でも、売上を意識しすぎてその地元を変えてしまうようなことはせず、昔ながらの姿を保ちながら魅力を伝えていくということを考えていて、素晴らしいと感じました。お金の目が眩んで本末転倒なことにならないよう気を付けるべきだということ学びました。

まずは地域の人に好かれ、楽しんでもらい、そうすれば遠くからも観光客が来るという言葉が印象に残りました。流行りを取り入れないと観光客は来ないのかなと思っていたけれど、地元の古くからの良さに惹かれて来る人は多いと思うし、その良さはその土地でしか出せないものだと思うので、今回このような事に気づくことが出来る貴重なお話を聞くことが出来て嬉しかったです。

また、観光産業は競うものだと思っていたけれど、他の会社を落とすのではなく、向上心を持って、仲間と一緒に地元を活性化させてくという気持ちが大切なのだ分かりました。地域の人に寄り添いながら輪を広げていけるような観光事業が出来たらより良い産業になっていくのかなと思いました。

最後に、特産品や観光資源などをどのように世界へ発信していくと良いのか、実際に行っている宣伝方法についても詳しく知りたいなと思いました。

観光を発展させるには、地域や企業が連携する事がとても大切だと思った。郡上市は、少子高齢化が進み、お店などの店主が亡くなり、町としての活力もなくなり、町が死んでしまうという課題があると分かった。関市は観光慣れしていなくて、町の色が出せていないという課題があると分かった。しかし、関市はものづくりなどの二次産業のサービス化によって他のエリアとは違う観光ができる可能性や魅力のある町だと分かった。また、流行は全て入れれば良いわけではなく、お客さんに合わせることや、ずっと続いている町の魅力を守る事の方が大切なのだ知った。

私自身、もともと観光にすごく関心があったわけではないが、面白い分野だと思った。将来やりたいことは決まっておらず、それが観光に関わっているわけではないが、身近に観光について一生懸命頑張っている人がいることを知り、とてもかっこ良いと思った。関市はとても素敵なまちだと思うけれど、その魅力を知っている人がまだまだ少ないと思うので、もっと広まってほしい。また、まだまだ私も知らないことがいっぱいあると思うので、色々なことに興味を持ってもっと地元を知っていききたい。

今まで自分たちは、観光事業と受け身でしか関わっていなかったため、観光を提供する人たちの話を聞いてとても面白かったです。観光の目的は人にたくさん来てもらうことだけではなく、その地域の人との関わりも大切にすることを改めて学びました。どうしても自分達の利益ばかりを考えてしまいがちですが、周りの人への配慮も観光業を成功させ、持続させていく秘訣なのだと思います。将来、観光に関わる仕事をしてみるのも良いと考えていたので、今日学んだことを頭に入れておいて、将来役立つようにしたいと思いました。

個々の店がそれぞれで観光客を呼び込むのではなく、良いものを作ろうという上向きな連携をして、エリア全体として活性化させるという考えにすごく納得できたとし、これからの観光の方向性が分かってとても興味深かった。また、観光と聞くと、観光客に楽しんでもらうことがいちばん重要だと思っていたけど、それよりも大切なのはその場所に住む人が楽しんで暮らすことで、それが地域の魅力になって人の流れを作ることにつながるということがわかった。「日常観光」という言葉を聞いて、日常の動線に観光客と繋がる場があるという観光のあり方は素敵だと思ったし、それがそこに住む人にとっては魅力の再認識にもなるから、未来に繋がる観光だと思った。

この講座を受けて、美濃加茂のリバーポートパークでは年齢制限をかけていないけれど、郡上のほうでは18歳以上という年齢制限をかけて、大人の楽しみ方もできる場所を作るなど楽しみ方の違いに注目した工夫をしていることを学び、驚いた。また、地域の観光業を発展させていくためには、流行に乗ることで観光客の増加に繋がっていくけれど、ただ流行を追えばよいのではなく、一番大切なのはやはりその地域特有のものを守っていくことだということを知った。

観光業は誰をターゲットにするか、この街の何を売りにするかなどを常に考える仕事で、その際に自分が受け持つ店や場所だけが繁盛すれば良いと考えるのではなく、自分の街を有名にし、その時のオススメとして自分の場所が紹介できるようにすることがこの仕事だと分かりました。また、ただ単に流行りに乗れば良いというわけでもなく、しっかりとリサーチし、来た人が楽しめるようにすることを一番とすることが分かりました。

今回の話を聞いて、地元を活性化させるには流行りに乗ったりするのではなく元からあるものを守って発展させていくことが大切だとわかりました。関市は刃物が有名なので、関市の刃物を今後も守って広めていきたいです。秋の刃物祭りも、広める方法の一つなのだとわかりました。祭りを行うことで、1度に多くの人に関の刃物を知ってもらう事ができるので、良いイベントだと思いました。